

猿猴橋の復元

大正15年の竣工当時の姿に復元するプロジェクト。地元住民の永年の夢がとどき、広島市被爆70周年事業の一つとして位置づけられ平成28年3月復元が完成した。

(平成27年度広島市受託研究)



復元までの流れ



猿猴橋は大正15年に架け替えられ、完成したときには広島一だといわれるほどの贅を尽くした美しい橋で、渡り初めには遠方からたくさんの方が来たという。
渡り初め式 1926



落成当時、橋の名を記した西側の欄干には、地球儀のような球の上に大鷹が羽を広げ、人々の往來を見守っていた豪華な姿が見えるが、当時の近代的名橋であった。



欄干には縁起川にすむという想像上の怪物「猿猴」2匹が、両側から橋を抱えた彫刻の透かし彫りをほめ込むという豪華さであった。



橋の欄干には彫灯もしつらえてあり、夜には一帯と水面を豊やかに照らしていたという。



戦時中、これらの欄干や彫灯は資材利用のため廃出され、その後大鷹も猿猴もその姿を見ることはできなくなった。しかしながら、戦後も崩壊や劣化の被害に悩み、姿を失ったままの復元に挑戦してきた。
1941-2015



復元 CG2008



復元模型 2008



モニュメント完成 2015.2



復元工事着工 2015



石部洗浄 2015



原型制作 2015



鷹像据付け 2016



試験点灯 2016



完成式典 2016.3.28



えんこうさん祭 2016.3.28

